

受験番号 _____

平成 30 (2018) 年度 一橋大学大学院 言語社会研究科 博士前期課程 (修士課程)
入学試験問題

第二部門

(日本語教育学位取得プログラム)

論文問題

- ・試験開始の合図があるまでこの冊子を開いてはいけない。以下の注意事項をよく読むこと。
- ・すべて日本語で解答しなさい。
- ・一般・日本語教育経験者は、A 問題、B 問題、C 問題の 3 つの問題から、2 つの問題を選んで解答しなさい。なお、A 問題、B 問題、C 問題につき、それぞれ別の用紙を用いて解答すること。
- ・外国人留学生は、A 問題、B 問題、C 問題の 3 つの問題から 1 つの問題を選んで解答しなさい。
- ・解答用紙には、以下のように選択した問題番号を解答の最初に記入すること。
例：A 問題—問 1 B 問題—①、③⑥⑨ C 問題—問題 2
※上記は例示であり、一般・日本語教育経験者にあっても、選択するのは 2 題である。
- ・解答に際して用紙 1 枚では不足の場合、試験監督員に申し出て追加配布を受けること。
- ・本冊子は持ち帰ってはいけない。上部の受験番号欄に必ず受験番号を記入しなさい。

第二部門（日本語教育学位取得プログラム）

論文 A 問題（日本語教育）

以下の2題（問1、問2）のうちから1題を選んで答えなさい。
解答の最初に選択した番号（問1または問2）を明記すること。

問1

文法教育において重要なことの1つに、教室活動をいかに現実の場面に結びつけるかということがある。このことを念頭に、次の問に答えなさい。

任意の文法形式を1つ取り上げ、その文法形式を導入するときに用いる例文と、その例文を選ぶ根拠を述べなさい。

問2

ピアラーニングとは、どのような学習方法かについて述べなさい。次に、ピアラーニングの長所と短所、及び、短所を補うには、どのような方策があるかについて述べなさい。

さらに、具体的な日本語レベルを設定し、ピアラーニングの長所を生かした授業活動の案を書きなさい。

第二部門（日本語教育学位取得プログラム）

論文B問題（日本語学）

【必須問題】①の用語一つ、および【選択問題】②～⑩の用語から三つ、計四つを選び、具体例をあげて説明しなさい。

できるだけ日本語の例をあげること。解答の最初に選択した番号を明記すること。五つ以上回答した場合は、0点になるので注意すること。

【必須問題】（かならず解答する）

① モダリティ

【選択問題】（以下の中から三つ選ぶ）

- ② 音節とモーラ
- ③ 認知言語学
- ④ 関連性理論
- ⑤ 日本語の終助詞
- ⑥ 打ち言葉
- ⑦ 多義語
- ⑧ レジスター（言語変種）
- ⑨ 終止形と連体形
- ⑩ 均衡コーパス（balanced corpus）

第二部門（日本語教育学位取得プログラム）

論文C問題（日本文化論）

以下の二つの問題のいずれかを選んで、解答しなさい。

解答の最初に選択した番号（問題1または問題2）を明記すること。

問題1 日本の物語文化について、具体的な事例を挙げながら論述しなさい。

問題2 「言語政策」と「言語教育」の関係を具体的な例をあげながら、論じなさい。